

# 三愛病院グループ 30年の軌跡

埼玉の民間病院でありながら大学病院に劣らない最新医療機器を導入し、地域の中核病院として急成長をしている病院グループがある。その具体的な足取りを検証した

## 三愛病院設立



1985年(昭和60年)4月、①患者への愛と思いやりの心 ②地域を愛する心③医療に奉仕する心の三つの愛を理念に、

三愛病院は現さいたま市桜区に13科目を標榜する52床の個人病院(後に医療法人社団松弘会となる)としてスタートした。

東邦大学医学部を卒業後、全身管理を学ぶため日赤医療センター麻酔科に入職した創設者の濟陽輝久理事長は、麻酔医として多くの手術に携わる中で早くからチーム医療の重要性を強く認識していた。開院当初から急性期病院としての役割を重んじ、24時間



最先端の医療機器をそろえ精密な検査と治療を受けられる「三愛病院」

「小さな病変でも見落とさずに発見するには、精密な診断が欠かせない」と惜しみなく設備投資を行った。1999年



最新鋭320列CT(東芝メディカル)(H25.8月導入)

### 三愛病院の最新医療機器

- ・ガンナイフ(開頭手術をせずに脳内病変を治療する極めて低侵襲な放射線治療器)
- ・レーザー光源搭載の新世代内視鏡システム
- ・320列最新型超高速ボリュームCT(心筋梗塞になる前に血管の狭窄が判明)
- ・マンモグラフィ
- ・小腸用カプセル内視鏡(身体的な負担を大幅に軽減。県内では初導入)
- ・DSA(血管造影検査、冠動脈治療装置)
- ・3.0フルデジタル磁気共鳴画像(MRIとMRA)
- ・高気圧酸素治療装置
- ・超音波診断装置(4D)
- ・脳外科用手術顕微鏡ナビゲーションシステム
- ・Full HD 鏡視下手術システム

患者に応じ多岐にわたる治療法を実施している。また在宅への復帰を目標としているため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚

士による身体機能のリハビリにも力を入れている。



メディカルモールのエントランス

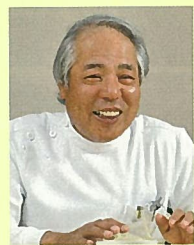
\*2014年9月時点での退院実績は2434名にものぼる。三愛病院グループの



患者の尊厳を重視し、愛情込めた医療の提供を目指す「トワーム小江戸病院」

強みは、急性期病院である「三愛病院」を核として、「トワーム小江戸病院」「介護老人保健施設「トワーム熊谷」「トワーム指扇」とタイプの違う病院施設が揃っていること、そしてそのいずれもが365日、24時間、患者

## 早期発見・早期診断・早期治療と予防医学に力を注ぐ



濟陽輝久(わたよう・てるひさ) 医療法人社団 松弘会 三愛病院 理事長

最新の医療機器・医療技術を積極的に導入し、早期発見・早期治療を徹底して、『救える命は一人でも多く救う』ことが使命であり、また地域への貢献だと思います。

具体的には医薬品・医療機器・医療材料卸、デイサービス等介護施設、接骨院、クリニック等で構成される「プレジデント会」で各々緊密な連携により結ばれている。

また、トワーム小江戸病院が患者及びその家族のため、また地域との絆を深めるために毎年行っているのが夏祭りだ。約600発のスターマイン



三愛病院新外来棟と現在のスタッフ

## 地域連携・地域貢献

2013年4月、三愛病院では新たに外来棟を完成させ「メディカルモール」と名付けた。新外来棟の完成により、最新医療機器を揃えた検査棟と外来棟との動線が整備され、患者に対する病院グループの目指す『早期発見・早期診断・早期治療』への体制が一段と強化されただけでなく、地域の基幹病院として周辺医療施設・病院との医療連携もより密に行えるようになり、文字通り「メディカルモール」としての役割を担う準備が整ったことになる。

他方三愛病院は救急救命士の気管挿管実習受け入れにも積極的で、地域に根付いた病院として存在感を増している。(2014年10月現在、気管挿管実習済救急救命士が56名三愛病院から卒業、さいたま市の過半数となる)

を病院の中庭で打ち上げ、お神輿和太鼓演奏のほか昭和レトロ風演出で患者さんへの回想法であると同時に地元の方にも楽しんでもらえるよう多くの企画がある。



トワーム小江戸病院中庭で打ち上げられたスターマイン(H25.7月小江戸祭り)

創立30周年を迎えた三愛病院グループは、超高齢化時代を目前にして「医療の基本は治すこと」「地域との共生」「最先端技術と機器」を旗印に、今後もアグレッシブに時代の医療を求め続けていく。